

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891400075		
法人名	特定医療法人社団 紀洋会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム篠山		
所在地	兵庫県篠山市西新町115-2		
自己評価作成日	平成24年11月21日	評価結果市町村受理日	平成25年4月10日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/otasuke.html		

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2、ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成25年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族のような、居心地のよい居場所づくりを目指しています。それぞれの入居者の想いを大切にして、個別ケアに重点をおき、外出や散歩、買い物等一緒に出掛けられる機会を多くもてるように努めています。入居者の方が出来ること、楽しめることを増やしています。職員全員でその気になってもらうケアの実践をおこない、自分から楽しみを見つけられるような機会づくりに取り組んでいます。地域的にも非常に恵まれており、サロンや交流会、奉仕作業等協力頂いています。入居者の方が安心して、生活が続けられることが一番大切であり、それが家族の安心、又地域の安心に繋がると思っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

西町公民館の隣に立地し、道行く人が時には挨拶に訪れる。また、近隣の幼稚園とは行ったり来たりので交流があり、西新町の寸劇ボランティアの訪問や老人会からの大掃除の応援など、地域住民が皆で事業所を支え、まさに居場所的な存在になっている。公民館には住民の憩いの場「いきいきサロン」があり、「うきうきパーティー」ほか毎月の行事に参加できる。篠山ならではの自然環境、歴史的な武家屋敷や名所など恰好の環境を活かして外出の機会が多い。個別目標シートを考案し、入居者の思いや希望を把握し、実行されたら業務日誌に丸を入れて確認している。中庭を囲む廊下は手すりが設置され、歩行訓練される方、車イスで回られる方に双六ゲーム形式で楽しみながらリハビリを続けられる工夫がされており、利用者からコマを進めるのが楽しいとの声も聞かれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

認知症対応型共同生活介護：グループホーム篠山

調査機関：CS神戸

自己	第三者	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中でその人らしさを尊重した穏やかな生活を目標に、それぞれの入居者のおもいに添った支援ができるように、職員共々取り組んでいる。	「家庭的環境でその人らしさを尊重した穏やかな生活を支援をする」を理念とし、利用者の外出の希望等、思いを聞きいれるよう、また実行できるように努めている。熱心なあまり、まるで家族のような口論を利用者と職員がすることもある。	壁には理念と運営目標が掲示されているものの、一緒に貼られている職員用のスローガンよりも小さく、見にくい。折角作った理念なので大きく、誰でも見やすくし、暗唱するなどして職員に啓蒙することを希望します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の地域サロンへの参加や地域ボランティアとの行事外出、年2回の定期的な幼稚園児の訪問、老人会との交流行事、奉仕作業等、同じ地域で暮らすものとして、お互い理解を深め、交流を深めるようにしている。	隣の公民館の地域サロン「うきうきパーティー」に毎回参加する。近隣の幼稚園児の定期的な訪問で、ゲーム等をし、園児の劇を見て楽しむ。道路に面した窓は開かれ、通りがかりの人などを眺める。事業所に立ち寄る人もいる。そんな普段のお付き合いがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度地域サロンへ参加することで、認知症であっても、いきいき生活ができること、グループホームの生活が地域の方に少しでもわかってもらえるように、カーテンを開けて、開放的にすることで来所してもらいやすい雰囲気作りに努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームでの活動報告を含め、良い面も困っている面も報告している。話し合いを通じて、助けて頂いたり、こちらが協力できることは協力するようにしている。	自治会長、民生委員、地域包括支援センターなどが出席し、事業所の活動状況、自治会の行事案内など情報交換しているが、家族の参加は積極的にお願いしていない。年末の家族会には過半数の参加があった。	家族の負担を減らすことに神経を使っており、参加を呼び掛けているとの事ですが、関心の高い家族もいるでしょうし、家族に利用者を訪問する機会を作っておくという逆の発想もあって良いのではないのでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターから運営推進会議に参加している。	運営推進会議の場以外に2ヶ月に1回、市の介護相談員が訪れ利用者や職員への面談があるので、市との連携は出来ている。ある入居希望者の家族が聴覚障害者で契約に際して市と直接連携しながら進めた例がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を実施し日々実践している。行きたい時に行きたい所へ行けるような環境を作り、入居者の想いに寄り添うようにしている。日中は玄関の施錠はしていない	毎年1回は、研修を行っている。新入職者は特に身体拘束ならびに虐待防止につきセットで研修をしている。玄関は施錠をしていない。徘徊もほとんどない。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修を実施し、日々実践している。職員同士介護の仕事について気軽に話せる環境を作り、想いを話せるように努めている	虐待防止の研修は身体拘束とセットで毎年1回行っている。職員のストレス管理については、職員同士がいつでも機会を見て話し合えるよう、昼休みの利用を提案している。言葉の虐待に気づいた時には後でそっと注意している。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在その必要性のある方は入居されていないが、今後は理解を深める必要がある。	現在その必要性が無いことから、研修は行っていない。将来の必要性を考え、機会を見て勉強する必要はある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時のオリエンテーションを作成し、十分入居者や家族が安心して入居できるように配慮している。入居前に本人がグループホームを見学し納得して来てもらえるように家族にはお願いしている。	入居時の契約に利用する説明マニュアルを作成してあり、これに沿って必要事項を利用者と家族に不安感を与えないように丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族には入居者の状態や日常生活に関して伝えている。玄関には意見箱を設置している。又家族会により家族の意見を反映し改善につながるようにしている。また介護相談員の訪問を受けている。	ご意見箱を設置しているものの特に意見はないが、市の介護相談員の定期的な訪問の折に、利用者・家族の意見を聴取している。年末に開催した家族会は7名の参加があり、終了後に忘年会を持ち、親交を図った。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対するアンケートや面談をすることで、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。ミーティングでは積極的に意見や提案ができるように雰囲気をつくるように努めている。	職員との面談は年2回行っている。全員参加の会議では、何でも話合えるような和やかな雰囲気の中で、主な業務(入浴、散歩、見守り、買い物)を毎朝くじ引きで決めるなどしている。非常勤の常勤への身分変更は、まだ実現化していない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力量よりワンステップ向上できるように業務や担当の仕事等任せている。又職員個々の努力や実績、勤務状況等は毎月報告しそれぞれの評価につながるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修にそれぞれの力量に合わせて参加できる機会がある。資格取得を目指せるように協力したり、前向きな気持ちを持てるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内のグループホームへの相互訪問により、それぞれの職員が刺激を受けたり、入居者も含めた交流会を持つことで同じ仕事をしているお互いの理解や協力体制が取れるように努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には、グループホームでの生活に安心して慣れるように入居者間の調整に努めている。又入所後は頑張りすぎる傾向があるため、頑張りすぎないように安心して過ごせる場であることを伝え、支援している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の生活を支えることは、家族を含めた生活を支えることであると認識し、入居前の見学時にも、グループホームでの生活について説明し、不安ができるだけなくなるように、また要望等にこたえるように努めている		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、担当のケアマネージャーを含めて本人にとって一番よいサービスにつながるように支援している。他のサービスを紹介することもある。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方に助けてもらうことも多々ある。ベテラン主婦として家事や掃除、洗濯等の手伝いから、入居者の方によって職員自身が心を救われることもある。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の誕生日会は家族とともに過ごしてもらうようにしている。面会時には来てもらいやすいような雰囲気やゆっくり入居者の方と過ごしてもらえるような環境を作っている。本人の想いに添って、自宅への外出やお墓参り等家族の協力を得て取り組んでいる		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室はそれぞれが馴染みのある家具や布団等で過ごしてもらえるようにしている。友人や隣人、親戚、知り合い等馴染みのある方の訪問も喜んでいる。	利用者全員の過去の間人関係をフェースシート上でつかみきれてはいないが、同じ地区からの友人の訪問は多く、自由である。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係には特に配慮して、お互いが気まずい思いをしないように心掛けている。トラブル等になる前に職員が間に入ったりすることもあるし、お互いが納得いくように話合ってもらっていることもある。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には面会に行ったり、病院に本人の想いや家族の想いを伝えるようにはしている。亡くなられた方の家族がグループホームへ来て下さることもあり、関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの職員が一人一人の想いをくみ取り、行きたい所へ一緒に外出したり、食べたい物を作ったり、本人の能力に合わせた作業等を行ったりしている。	毎月のカンファレンスやミーティングの場で思いや意向を共有し、把握困難な場合は日常生活の中でスキンシップを図りながら汲み取る努力をしている。それらをA4一枚に端的にまとめた毎月の個別目標シートは利用者の励みや楽しみ実現のツールになっている。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族より今までの生活歴や暮らし方等の把握を行っている。入所後は本人よりゆっくり話を聞いたり、その人の行動により推察するようにし、一番その人らしい生活ができるように努めている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に合わせた運動の実施や、その日の体調や気分に合わせて対応をしている。それぞれが有する力も違う為、出来ないところを補い、出来るところは協力してもらうようにしている。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスの実施により、それぞれのケアの内容の確認と新たなケアプランの作成、本人や家族とも相談し、安全で安心できる介護計画の作成に努めている。	カンファレンス時にケア内容を確認するが、無理のない安全、安心なケアを心掛け、本人、家族の意向や思いを中心に置いた取り組みやすい介護計画を作っている。心身の細かな変化にも訪問看護などと連携をとり、必要に応じてケアの内容を変える事もある。	ライフサポートプランを勉強されてはどうか。変化に柔軟に対応でき、本人、家族の意向や思いを整理しやすいです。個別目標シートに反映させる上で、とても参考になると思います。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの内容は療養記録に記載し、必ず職員が目を通すようにしてケアの内容や変化等職員間で共有している。毎日申し送り時にはその日の気づき等も伝え、気をつけておくべき事項等も共有している。			
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今年度は特に個別ケア、それぞれの想いに添ったケアの実践を目指している。個別外出をしたり、その人にあった食事に変更する等、思いや体調に合わせるように支援している。			

自己	者 第三	項 目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅近辺での行事に参加したり、自宅の畑へ野菜を取りに行ったり、入所前に利用していたデイサービスに行って懐かしい人達と出会ったりと本人に合わせた楽しみをもてるように支援している。	
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の往診時には本人の状態を伝え適切に指示を受けている。必要時は受診も行い、待ち時間等入居者の負担を少しでも軽減できるように病院にも配慮してもらっている。	毎月、岡本病院の理事長の往診があり、受診時には本人の心身の負担、家族の負担の軽減に努めている。急変時に備え、連絡、連携も密に取っている。又、毎月歯科医による口腔ケア、毎週歯科衛生士による口腔ケアの訪問診療も受けている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護との医療連携により、24時間看護師から指示を受けられる協力体制をとっている。月2回の訪問により入居者の方の体調をチェックし、必要により指示を受けている。体調不良時や急変時の対応も早く、入居者は安心して生活が続けられ、職員も安心してケアができる。	
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入居者の方が安心してスムーズに医療的ケアが受けられるように努めている。入院時には病院関係者との連携に努め、退院時の調整等もやっている。	入院時には介護サマリーを作成し、情報提供している。退院時には退院計画書を作成し、病院関係者、本人、家族をまじえ、事業所が対応しうる最大の支援方法を提供できるように努めている。病院が近い為、協働しやすい環境にある。
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、本人の想いや家族の想いをくみ取り、話し合いを重ね、主治医や訪問看護との協力を得て、実施するようにしている。職員間でも研修を行ったり、話し合いをすることで、最期まで家族としてグループホームで安心して生活できるように支援している	ターミナルケアを行っているので、看取りの研修を行い、スキルアップに努めている。本人、家族に同意を得た上で、主治医、訪問看護、職員間の情報の共有を図り、日々変化する心身の状態に対応している。また職員の精神面の負担軽減にも配慮している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	手順書を作成し、全ての職員が初期対応できるようにしている。消防訓練時には消防士より応急手当や初期対応の研修を実施している。	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時は必ず消防士に来て頂き、訓練を重ねている。その他の災害時には法人による緊急連絡簿や協力病院に連絡するようになっている。停電対策や台風時にはその都度職員が対応するようになっている。	緊急時に少しでも落ち着いて避難が出来るように、年2回、入所者とともに避難訓練、通報訓練、消火訓練、搬送訓練を重ねている。AEDの使用方法、消火器の扱い方などの研修も受ける。消防士の評価も得られた。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方に視線を合わせて対応する様になっている。命令的な態度やプライバシーを損ねるような職員の対応があればその都度お互いが注意するようにしている。	入浴やトイレ時などは、利用者の尊重・プライバシーの確保に1人1人が気を配り、お互い注意し合える環境づくりを心掛けている。プライバシー確保のため居室は鍵を掛けられるが、緊急時には解錠できる。また居室に入るときは、ノックしたり、了解を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の体の状態や気分により、体操や手作業への参加を見合わせたり、お風呂に入りたい、入りたくない等その日の希望に合わせて柔軟に対応するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合でどうしても対応できない場合もあるが、出来る限りその人の希望やペースを優先できるよう業務の調整をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院へ行ったり、自分の好きな服を着たり、一緒に買い物ができるように支援している。行事等で外出する時は、本人と相談しながらおしゃれをしてでかけるようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今日これ食べたいわ・・と言われたものを作ったり、一緒に買い物をして食べたい魚を買ったり、調理方法や味付けを教わることもある。食事の下ごしらえや、盛り付け等も手伝ってもらっている。後片付けについても任せてお願いすることもある。	おいしい物を楽しく食べる事を大切にしている。外出支援で買い物に行った時は、食べたいものがあればその日のメニューにすることもある。野菜の下ごしらえ、盛り付けや配膳・下膳もする。管理栄養士の指導も受け、体重を測定して健康管理もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により定期的にカロリーチェックを行っている。体重管理をして、それぞれに合わせた食べ物や飲み物を提供している。水分量にも気をつけて、飲み物の種類を豊富にして、それぞれが美味しく水分補給ができるように好みに合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1度口腔外科から往診、月4回歯科衛生士による口腔ケアを実施している。特に毎食後は重曹水を使用し、口腔ケアを実施している。口腔ケアの必要性を入居者の方にも伝え、職員全員口腔ケアの必要性を認識し実践している。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に応じた排泄パターンや排泄方法を把握している。日中はトイレでの排泄をケアし気持ちよく過ごせるようにしている。	ポータブルトイレは置いていない。一人ひとりの排泄パターンを把握し、また日常動作の中で、プライバシーに配慮しながら、言葉がけ、適切な誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要な人には排便確認を行っている。冷たい牛乳やお腹のマッサージ等を行い、スムーズに排便ができるようにしている。必要に応じて薬の服用もしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくりその人のペースで入浴できるように配慮している。寒さや暑さにも気をつけ、脱衣所と浴室に温度差がないように気をつけている。それぞれが入りたくなるような声かけや誘導を行うようにしている。寒い時期には足浴も実施している。	午前中、入浴される方もおれば午後入浴される方もおり、それぞれのペースで入浴を楽しむことができる。入浴しない日、あるいは寒い季節には足浴を行い、喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人が不安で寝付けない方には一緒に居室で過ごすこともある。それぞれの馴染みの布団を持ってこられているため気持ちよく眠れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については間違いが無いように特に気をつけて、3重チェックを行って提供している。新しい薬を服用した場合には変化等に気をつけて主治医に報告したり、相談して必要な薬を服用されることもある。薬の内容についてはいつでも確認できるように事務所に保管して必要時は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や塗り絵等、本人が好きなことを楽しんで、掲示したり、本が好きな方は雑誌やパンフレット等を持ってきて見てもらったり、柿取りに出かけたり、それぞれの力の応じて支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りや家族の葬儀の参列等も一緒に行っている。図書館や回転ずし、喫茶店、カラオケ等本人の希望に応じて外出している。家族にも協力を得て自宅へ帰られるように努めている。	毎月の個別目標シートをもとに、お墓参りであったり、温泉であったり、岡本病院の老健クラブの生け花教室であったりと本人の希望が叶うよう支援している。隣接する西新町公民館のいきいきサロンへ行く日を楽しみにされている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が自分でお金を持つことで、その人の安心や力につながるように支援している。反対にお金を自分で持つことで不安や心配が増える場合は、本人や家族の了解を得て預かっている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に定期的に電話をかけて話されたり、法事や家族行事に参加される。暑中見舞いや年賀状には入居者の方の一言をつけて出している。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには散歩中に摘んだ花を飾ったり、行事の写真の貼ったり、季節にあった飾り付けや入居者の作品等を展示している。トイレが冬場が寒くなるため配慮が必要である	玄関を入ると吹き抜けの高い天井に天窗があり明るい。中央には中庭があり、青く澄んだ空を眺めたり、天気、季節の移り変わりを体感できる。カーテンは開けており、行き交う大人、子供たちや犬など普通の町の生活が見える。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3つ置き、冬は電気カーペットを敷くことで靴を脱いで過ごせる場所を作っている。それぞれが好きな場所で過ごし、その時々に入居者同士話したり、職員が間に入り話が弾むことも多々ある。車椅子の方もできるだけソファで座って過せるようにしている。電気カーペット上で昼寝をしたり、ソファでうとうとされる気持ちのよい場面もみられる。一人で過ごすよりフロアで人の声を聞きながら過ごすことで安心される方もおられる。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やタンス、テレビやラジオ等使い慣れた物や好みの物をもってきてもらっている。家族や職員によりタンスに何がはいつているのかわかりやすくなり、それぞれが使い慣れた布団に寝ることで安心してもらえるようにしている。	居室は一人ひとり季節の絵が貼られ、使い慣れた家具が置かれた、その人らしい居室となっている。慣れ親しんだ布団や枕が持ち込まれて、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	文章による対応や、ビニールテープを貼ることで車椅子を止める場所の確認をしたり、汚染された服等を入れるバケツを設置するなどそれぞれの入居者の有する力に合わせた対応をしている。また全職員が同じ対応ができるように連絡長等を利用して確認している		